2026・1・1【角川俳句賞2026プランAt-01】選13句

角 やはらかな闇につつんで雛をさむ

角 頭から人現はるる御身拭

角 桜貝夢の化石と思ひけり

角 仮の名と言はれし仮名ぞ花吹雪

角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角 五月雨の止むを忘れて明日もかな

角 流れ行く柱の見ゆる梅雨の川

角 警報を自ら発し蚊の襲来

角 アパートの灯り初めたる秋の暮

角 アパートにまだ灯の点かず秋の暮

角 雪月花に色勝りける紅葉かな

角 毎年よ冬来りなば冬籠

角 年用意わからぬ箱は開けてみる

12行3段組14ポ 2026年1月1日 20:25〈1〉桐10

2026・1・2【角川俳句賞2026 At-02 全42句】選16句

角 涅槃図を掛けて静かに騒がしき

角 頭から人現はるる御身拭

角 桜貝夢の化石と思ひけり

角 地虫出づれど礎石の上に何もなし

角 根の先も近くあるらむ桃と梅

角 桃と梅雛に仕へる姉いもと

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角 流れ行く柱の見ゆる梅雨出水

角 警報を自ら発し蚊の飛来

角 テトラポットの積まれ積まれて流れ星

角 忘却に彼方ありけり落し水

角 雪月花に色勝りける紅葉かな

角 落葉道駅へ続けりお寺へも

角 後ろから押され押されて大晦日

角 年用意わからぬ箱は開けてみる

12行3段組14ポ 2026年1月2日 21:57 〈1〉 桐10

2026・1・3【角川俳句賞2026 At+03 全54句】選19句

角　日を溜めてわが身を溶かすうす氷

角　涅槃図を掛けて静かに騒がしき

角　昭和の日甘きキャラメル・チョコレート

角　桜貝夢の化石と思ひけり

角　根の先も近くあるらむ桃と梅

角　桃と梅雛に仕へる姉いもと

角　仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角　流れ行く柱の見ゆる梅雨出水

角　飛来する蚊や警報を発しつつ

角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も

角　蚕豆や鳶は鷹にならずとも

角　荒積みのテトラポッドに流れ星

角　松手入こんな大きな枝までも

角　雪月花に色勝りける紅葉かな

角　寒卵割つて卵の丸裸

角　熊食べて熊の親子の夢を見て

角　落葉道駅へ続けりお寺へも

角　年用意わからぬ箱は開けてみる

12行3段組14ポ　2026年1月3日　19:43〈1〉桐10

2026・1・4【角川俳句賞2026 At-04 18/60句】

角　日を溜めてわが身を溶かすうす氷

角　荒積みのテトラポッドに流れ星

角　姉いもと雛に仕へる梅と桃

角　松手入こんな大きな枝までも

角　桜貝夢の化石と思ふなり

角　熊食べて熊の親子の夢を見て

角　涅槃図を掛けて静かに騒がしき

角　落葉道駅へ続けりお寺へも

角　新参の墓石もある彼岸かな

角　年用意わからぬ箱は開けてみる

角　仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角　寒卵割つて卵の丸裸

角　鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角　昭和の日甘きキャラメル・チョコレート

角　蚕豆や鳶は鷹にならずとも

角　スッピンの涼しき顔の憎らしき

角　飛来する蚊や警告を発しつつ

角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も

2026・1・21【角川俳句賞2026 At-05 全64句】選17句

角 姉いもと雛に仕へる梅と桃
角 桜貝夢の化石と思ふなり
角 新参の墓石もある彼岸かな
角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 昭和の日あまきキャラメル・チョコレート
角 蚕豆や鳶は鷹にならずとも
角 胃に溶けてよりの効能雲の峰
角 スッピンの涼しき顔の憎らしき
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 荒積みのテトラポッドに流れ星
角 松手入こんな大きな枝までも
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 年用意わからぬ箱は開けてみる
角 去年今年地に張り付いて滑走路
角 寒卵割つて卵の丸裸

12行3段組14ポ 2026年1月21日 07:00〈1〉桐10

角 姉妹は雛に仕へる梅と桃

角 砂浜に夢の化石の桜貝

角 新参の墓石もある彼岸かな

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 母校には待つ人もなし桜咲く

角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角 花冷の十四五人に出開帳

角 昭和の日あまきキャラメル・チョコレート

角 蚕豆や鳶は鷹にならずとも

角 飛び立てり〇の中から巣立鳥

角 胃に溶けてよりの効能雲の峰

角 飛来する蚊や警告を発しつつ

角 荒積みのテトラポッドに流れ星

角 松手入こんな大きな枝までも

角 落葉道駅へ続けりお寺へも

角 年用意わからぬ箱は開けてみる

角 去年今年地に張り付いて滑走路

角 寒卵割つて卵の丸裸

角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も

角　姉妹は雛に仕へる梅と桃
角　砂浜に夢の化石の桜貝
角　新参の墓石もある彼岸かな
角　母校には待つ人もなし桜咲く
角　鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角　仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角　花冷の十四五人に出開帳
角　昭和の日あまきキャラメル・チョコレート
角　飛び立てり〇の中から巣立鳥
角　胃に溶けてよりの効能雲の峰
角　飛来する蚊や警告を発しつつ
角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角　荒積みのテトラポッドに流れ星
角　松手入こんな大きな枝までも
角　落葉道駅へ続けりお寺へも
角　きゆっきゆっと生きて深夜の雪を踏む
角　年用意わからぬ箱は開けてみる
角　去年今年地に張り付いて滑走路
角　湯たんぽの予熱のごとし日向ぼこ
角　白鳥の背骨に続く首の骨
角　寒卵割つて卵の丸裸

12行3段組14ポ 2026年1月30日 12:37 〈1〉 桐10

角　姉妹は雛に仕へる梅と桃
角　新参の墓石もある彼岸かな
角　砂浜に夢の化石の桜貝
角　母校すでに待つ人もなし桜咲く
角　鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角　仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角　花冷の十四五人に出開帳
角　昭和の日あまきキャラメル・チョコレート
角　飛び立てり〇の中から巣立鳥
角　胃に溶けてよりの効能雲の峰
角　飛来する蚊や警告を発しつつ
角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角　荒積みのテトラポッドに流れ星
角　鶏頭は重く曼珠沙華は軽く
角　落葉道駅へ続けりお寺へも
角　年用意わからぬ箱は開けてみる
角　去年今年地に張り付いて滑走路
角　きゆつきゆつと新雪鳴かす朝かな
角　太陽の余熱と共に日向ぼこ
角　白鳥の背骨に続く首の骨
角　寒卵割つて卵の丸裸

2026・1・31【角川俳句賞2026At-09 21／99句1増1減】

角　ふたりして雛に仕へる梅と桃
角　新参の墓石もある彼岸かな
角　砂浜に夢の化石の桜貝
角　母校とて知る人もなし桜咲く
角　鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角　仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角　花冷の十四五人に出開帳
角　昭和の日あまきキャラメル・チョコレート
角　飛び立てり〇の中から巣立鳥
角　梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角　胃に溶けてよりの効能雲の峰
角　飛来する蚊や警告を発しつつ
角　太陽の余熱大切日向ぼこ
角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角　荒積みのテトラポッドに流れ星
角　落葉道駅へ続けりお寺へも
角　年用意わからぬ箱は開けてみる
角　去年今年地に張り付いて滑走路
角　きゆつきゆつと新雪鳴かす朝かな
角　白鳥の背骨に続く首の骨
角　寒卵割つて卵の丸裸

12行3段組14ポ　2026年1月31日　16：54　〈1〉　桐10

2026・2・3【角川俳句賞2026 At-10 21/105句0増0減】

角　梅と桃ひなにかしづくふたりかな
角　新参の墓石もある彼岸かな
角　砂浜に夢の化石の桜貝
角　母校とて知る人もなし桜咲く
角　鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角　仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角　花冷の十四五人に出開帳
角　昭和の日あまきキャラメル・チョコレート
角　飛び立てり〇の中から巣立鳥
角　梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角　胃に溶けてよりの効能雲の峰
角　飛来する蚊や警告を発しつつ
角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角　荒積みのテトラポッドに流れ星
角　落葉道駅へ続けりお寺へも
角　年用意わからぬ箱は開けてみる
角　去年今年地に張り付いて滑走路
角　きゆつきゆつと新雪鳴かす朝かな
角　衰へし日にも力や日向ぼこ
角　白鳥の背骨に続く首の骨
角　寒卵割つて卵の丸裸

12行3段組14ポ　2026年2月3日　12:17　〈1〉　桐10

2026・2・4【角川俳句賞2026A t-11 25/13 1句4増0減】

角　春光は我に隣りの空席に
角　押し込んで息は音色に麗かに
角　梅と桃のやうに雛にかしづけり
角　新参の墓石もある彼岸かな
角　砂浜に夢の化石の桜貝
角　母校とて知る人もなし桜咲く
角　鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角　仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角　花冷の十四五人に出開帳
角　昭和の日あまきキャラメル・チョコレート
角　飛び立てり〇の中から巣立鳥
角　五月雨の止むを忘るる明日かな
角　梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角　胃に溶けてよりの効能雲の峰
角　飛来する蚊や警告を発しつつ
角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角　荒積みのテトラポッドに流れ星
角　秋刀魚焼く焦目しっかりミディアムに
角　落葉道駅へ続けりお寺へも
角　年用意わからぬ箱は開けてみる
角　去年今年地に張り付いて滑走路
角　きゆつきゆつと新雪鳴かす朝かな
角　衰へし日にも力や日向ぼこ
角　凍鶴の首の骨から背骨へと
角　寒卵割つて卵の丸裸

12行3段組14ポ　2026年2月4日　14：23　〈1〉　桐10

2026・2・9【角川俳句賞2026At-12　21/12句2増6減】

角　梅と桃のやうに雛にかしづけり
角　新参の墓石もある彼岸かな
角　砂浜に夢の化石の桜貝
角　母校とて知る人もなし桜咲く
角　鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角　仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角　花冷の十四五人に出開帳
角　昭和の日あまきキャラメル・チョコレート
角　飛び立てり〇の中から巣立鳥
角　梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角　胃に溶けてよりの効能雲の峰
角　飛来する蚊や警告を発しつつ
角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角　クレーンで部屋を積み上げ星祭
角　落葉道駅へ続けりお寺へも
角　年用意わからぬ箱は開けてみる
角　角部屋の東は広し初日の出
角　去年今年地に張り付いて滑走路
角　きゆつきゆつと新雪鳴かす朝かな
角　衰へし日にも力や日向ぼこ
角　寒卵割つて卵の丸裸

12行3段組14ポ　2026年2月9日　21:15　〈1〉　桐10

2026・2・11【角川俳句賞2026 At-13 22/13句1増0減】

角 梅と桃のやうに雛にかしづけり
角 新参の墓石もある彼岸かな
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 友の字が反の字に似る万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角 花冷の十四五人に出開帳
角 昭和の日あまきキャラメル・チョコレート
角 飛び立てり〇の中から巣立鳥
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けてよりの効能雲の峰
角 蜩と蚊の羽音の違ひ体形も
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 クレーンで部屋を積み上げ星祭
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 年用意わからぬ箱は開けてみる
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 去年今年地に張り付いて滑走路
角 きゆっきゆっと新雪鳴かす朝かな
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 寒卵割つて卵の丸裸

2026・3・21【角川俳句賞2026At-14　25〈13〉句3増0減】

角　梅と桃のやうに雛にかしづけり

角　新参の墓石もある彼岸かな

角　砂浜に夢の化石の桜貝

角　友の字が反の字に似る万愚節

角　母校とて知る人もなし桜咲く

角　花下に立ち幹に凭れて目を閉ぢて

角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も

角　遊園地いざ台風を迎へ撃て

角　かぶせたる土や焚火の後始末

角　落葉道駅へ続けりお寺へも

角　年用意わからぬ箱は開けてみる

角　去年今年地に張り付いて滑走路

角　昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し

角　葉桜と柳がここに昔から

角　飛び立てり〇の中から巣立鳥

角　梅雨晴の千傘の影濃かりけり

角　胃に溶けてよりの効能雲の峰

角　飛来する蚊や警告を発しつつ

角　寒卵割つて卵の丸裸

角　角部屋の今こそ光れ初日の出

角　きゆつきゆつと新雪鳴かす朝かな

角　衰へし日にも力や日向ぼこ

2026・3・22【角川俳句賞2026At-15 25／15句0増0減】

角　梅と桃のやうに雛にかしづけり
角　新参の墓石もある彼岸かな
角　砂浜に夢の化石の桜貝
角　友の字が反の字に似る万愚節
角　母校とて知る人もなし桜咲く
角　花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角　鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角　仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角　花冷の十四五人に出開帳
角　昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角　葉桜と柳はここに昔から
角　飛び立てり〇の中から巣立鳥
角　梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角　胃に溶けて効能生るる雲の峰
角　飛来する蚊や警告を発しつつ
角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角　台風を迎へ撃つべく遊園地
角　水と土かけて終らす焚火かな
角　落葉道駅へ続けりお寺へも
角　年用意わからぬ箱は開けてみる
角　去年今年地に張り付いて滑走路
角　角部屋の今こそ光れ初日の出
角　きゆっきゆっと新雪鳴かす楽しさよ
角　衰へし日にも力や日向ぼこ
角　寒卵割つて卵の丸裸

2026・3・23【角川俳句賞2026 At-16 25〜16】句0増0減

角　梅と桃のやうに雛にかしづくよ

角　新参の墓石もある彼岸かな

角　砂浜に夢の化石の桜貝

角　友の字が反の字に似る万愚節

角　母校とて知る人もなし桜咲く

角　花下に立ち幹に凭れて目を瞑る

角　鉄筋は壁に隠れて花吹雪

角　仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角　花冷の十四五人に出開帳

角　昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し

角　昔からここに葉桜、夏柳

角　飛び立てり〇の中から巣立鳥

角　梅雨晴の干傘の影濃かりけり

角　胃に溶けて薬効あるる雲の峰

角　飛来する蚊や警告を発しつつ

角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も

角　台風を迎へ撃つべく遊園地

角　落葉道駅へ続けりお寺へも

角　土と水かけて終らす焚火かな

角　年用意わからぬ箱は開けてみる

角　去年今年地に張り付いて滑走路

角　角部屋の今こそ光れ初日の出

角　きゆつきゆつと新雪鳴かす楽しさよ

角　衰へし日にも力や日向ぼこ

角　寒卵割つて裸の寒卵

12行3段組14ポ　2026年3月23日　09:33　〈1〉　桐10

2026・3・27【角川俳句賞2026At-17 26/17句1増0減】

角　梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角　新参の墓石のある彼岸かな
角　砂浜に夢の化石の桜貝
角　友の字が反の字に似る万愚節
角　母校とて知る人もなし桜咲く
角　花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角　鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角　仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角　花冷の十四五人に出開帳
角　昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角　あの時もこの葉桜と夏柳
角　飛び立てり〇の中から巣立鳥
角　梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角　胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角　飛来する蚊や警告を発しつつ
角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角　台風を迎へ撃つべく遊園地
角　落葉道駅へ続けりお寺へも
角　土と水かけて終らす焚火かな
角　年用意わからぬ箱は開けてみる
角　去年今年地に張り付いて滑走路
角　角部屋の今こそ光れ初日の出
角　きゆつきゆつと新雪鳴かす楽しさよ
角　衰へし日にも力や日向ぼこ
角　寒卵割つて裸の寒卵
角　卵焼くるくる巻いて春を待つ

12行3段組14ポ　2026年3月27日　07:54　〈1〉　桐10

角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 新参の墓石のある彼岸かな
角 土の上に芽吹き木々の枝に芽吹く
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 ヒラガナとかたかな習ふ四月馬鹿
角 友の字が反の字に似る万愚節
角 駅ホーム見よ日本の更衣
角 飛び立てり〇の中から巣立鳥
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角 湯ぼてりの如くいささか花疲れ
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 花冷の十四五人に出開帳
角 をさな子のほっぺた丸くチューリップ
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの頃もこの葉桜と夏柳
角 きゆっきゆっと新雪鳴かす楽しさよ
角 冬籠さらに己れに籠りけり
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 寒卵割つて裸の寒卵
角 卵焼くるくる巻いて春を待つ
角 水槽で終る一生星祭
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす焚火かな
角 年用意わからぬ箱は開けてみる
角 去年今年地に張り付いて滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 花篝忍者の潜む夜のお濠

2026・5・2【角川俳句賞2026 At-19 37/203句5増2減】選20句

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 新参の墓石のある彼岸かな
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 土の上に芽吹き木々の枝に芽吹く
角 ヒラガナとかたかなで書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花簀忍者の潜む夜のお濠
角 花冷の十四五人に出開帳
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 飛び立てり〇の中から巣立鳥
角 駅ホーム見よ日本の更衣
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 働いて針より細き蟻の脚
角 蟻地獄向三軒両隣
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 五指に余る秋果の幸を先づひとつ
角 水槽で終る一生星祭
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす焚火かな
角 年用意わからぬ箱は開けてみる
角 去年今年地に張り付いて滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 きゆっきゆっと新雪鳴かす楽しさよ
角 冬籠ひとり己れに籠りけり
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 厚布団羽根と羽毛の違ひあり
角 寒卵割つて裸の寒卵
角 卵焼くるくる巻いて春を待つ

17行3段組14ポ 2026年5月2日 17:08 〈1〉 桐10

2026・5・3【角川俳句賞2026 At−20 37／22句1増1減】選37句

角 春昼や頭で数へる蝶くぢら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 新参の墓石のある彼岸かな
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 土の上に芽吹き木々の枝にも芽吹く
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花簀忍者の潜む夜のお濠
角 花冷の十四五人に出開帳
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 飛び立てり〇の中から巣立鳥
角 電車到着見よ日本の更衣
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 四阿の心もとなき夕立かな
角 働いて針より細き蟻の脚
角 蟻地獄向三軒両隣
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 水槽で終る一生星祭
角 火恋しひとり己れに籠りなば
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす焚火かな
角 きゆつきゆつと新雪鳴かす楽しさよ
角 年用意わからぬ箱は開けてみる
角 去年今年地に張り付いて滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 厚布団羽根と羽毛の違ひあり
角 寒卵割つて裸の寒卵
角 春待つや甘く巻きたる卵焼

17行 3段組14ポ 2026年5月3日 15:48 〈1〉 桐10

2026・5・4【角川俳句賞2026 A t-21 38/23句1増0減】選0句

角 春昼や頭で数へる蝶くぢら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 新参の墓石のある彼岸かな
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 地に芽吹き木々にも芽吹く良い天気
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花簀忍者の潜む夜のお濠
角 花冷の十四五人に出開帳
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 豆ごはんいただきますの声の張り
角 飛び立つや〇の中から巣立鳥
角 電車到着見よ日本の更衣
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 働いて針より細き蟻の脚
角 蟻地獄向三軒両隣
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 水槽で終る一生星祭
角 火恋しひとり己れに籠りなば
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす焚火かな
角 きゆっきゆっと新雪鳴かす楽しさよ
角 年用意わからぬ箱は開けてみる
角 去年今年地に張り付いて滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 厚布団羽根と羽毛の違ひあり
角 寒卵割って裸の寒卵
角 春待つや甘く巻きたる卵焼

17行3段組14ポ 2026年5月4日 06:49〈1〉桐10

2026・5・5【角川俳句賞2026 At-22 37/228句1増2減】選37句

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 新参の墓石のある彼岸かな
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花簀忍者の潜む夜のお濠
角 花冷の十四五人に出開帳
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 豆めしのいただきますの子らの声
角 飛び立つや〇の中から巣立鳥
角 電車到着見よ日本の更衣
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 働いて針より細き蟻の脚
角 蟻地獄向三軒両隣
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 水槽で終る一生星祭
角 火恋しひとり己れに籠りなば
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす焚火かな
角 きゆっきゅっと新雪鳴かす楽しさよ
角 去年今年地に張り付いて滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 寒卵割って裸の寒卵
角 春待つや甘く巻きたる卵焼

17行 3段組14ポ 2026年5月5日 15:51 〈1〉 桐10

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 新参の墓石のある彼岸かな
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花篝忍者の潜む夜のお濠
角 花冷の十四五人に出開帳
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 豆めしのいただきますももどかしく
角 飛び立つや〇の中から巣立鳥
角 電車到着見よ日本の更衣
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 働いて針より細き蟻の脚
角 蟻地獄向三軒両隣
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 ドア明けて我家の外の秋の暮
角 玄関に地べたありけり秋の暮
角 水槽で終る一生星祭
角 火恋しひとり己れに籠りなば
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす焚火かな
角 去年今年地に張り付いて滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 寒卵割つて裸の寒卵
角 春待つや甘く巻きたる卵焼
角 きゆっきゆっと新雪鳴かす楽しさよ

もーろ
まんかあり

2026・5・11【角川俳句賞2026 At-24 40/242句2増1減】選24句

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 新参の墓石のある彼岸かな
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花簪忍者の潜む夜のお濠
角 花冷の十四五人に出開帳
角 うちの子は云々と言ふその子猫
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 豆めしのいただきますももどかしう
角 飛び立つや〇の中から巣立鳥
角 電車到着見よ日本の更衣
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 水風呂をプールプールと喜びぬ
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 働いて針より細き蟻の脚
角 蟻地獄向三軒両隣
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 玄関に地べたありけり秋の暮
角 水槽で終る一生星祭
角 火恋しひとり己れに籠りなば
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす焚火かな
角 きゆっきゆっと新雪鳴かす楽しさよ

17行3段組14ポ 2026年5月11日 05:53 〈1〉 桐10

2026・5・12【角川俳句賞2026 At-25 40/238句1増1減】選47句

角　麗かや頭で数へる蝶くぢら
角　梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角　新参の墓石のある彼岸寺
角　砂浜に夢の化石の桜貝
角　地に芽吹き木々にも芽吹く志
角　かたかなでヒラガナと書く万愚節
角　母校とて知る人もなし桜咲く
角　花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角　鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角　湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角　花篝忍者の潜む夜のお濠
角　花冷の十四五人に出開帳
角　うちの子は云々と言ふその子猫
角　昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角　あの時もこの葉桜と夏柳
角　豆めしのいただきますももどかしう
角　飛び立つや〇の中から巣立鳥
角　電車到着見よ日本の更衣
角　梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角　胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角　水風呂をプールプールと喜びぬ
角　働いて針より細き蟻の脚
角　年輪を切れば年輪蟬時雨
角　蟻地獄向三軒両隣
角　飛来する蚊や警告を発しつつ
角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角　四阿の四面楚歌なる夕立かな
角　盆用意わけのわからぬ箱もある
角　台風を迎へ撃つべく遊園地
角　玄関に小さい地べたや秋の暮
角　水槽で終る一生星祭
角　火より人恋しく籠る山河かな
角　硬きままふくらんでゆく林檎の実
角　落葉道駅へ続けりお寺へも
角　土と水かけて終らす焚火かな
角　去年今年地に張り付ける滑走路
角　角部屋の今こそ光れ初日の出
角　衰へし日にも力や日向ぼこ
角　寒卵割つて裸の寒卵
角　春待つや甘く巻きたる卵焼

2026・5・13【角川俳句賞2026 At-26 42／24句2増0減】選4句

角　麗かや頭で数へる蝶くぢら
角　梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角　新参の墓石のある彼岸寺
角　終点の駅に港や卒業す
角　砂浜に夢の化石の桜貝
角　地に芽吹き木々にも芽吹く志
角　かたかなでヒラガナと書く万愚節
角　母校とて知る人もなし桜咲く
角　花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角　鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角　湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角　花簪忍者の潜む夜のお濠
角　花冷の十四五人に出開帳
角　うちの子は云々と言ふその子猫
角　昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角　あの時もこの葉桜と夏柳
角　豆めしのいただきますももどかしう
角　飛び立つや〇の中から巣立鳥
角　電車到着見よ日本の更衣
角　梅雨晴の千傘の影濃かりけり
角　踏切に特急を待つ暑さかな
角　胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角　水風呂をプールプールと喜びぬ
角　働いて針より細き蟻の脚
角　年輪を切れば年輪蟬時雨
角　蟻地獄向三軒両隣
角　飛来する蚊や警告を発しつつ
角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角　四阿の四面楚歌なる夕立かな
角　盆用意わけのわからぬ箱もある
角　台風を迎へ撃つべく遊園地
角　玄関に小さい地べたや秋の暮
角　水槽で終る一生星祭
角　火より人恋しく籠る山河かな
角　硬きままふくらんでゆく林檎の実
角　落葉道駅へ続けりお寺へも
角　土と水かけて終らす焚火かな
角　去年今年地に張り付ける滑走路
角　角部屋の今こそ光れ初日の出
角　衰へし日にも力や日向ぼこ
角　寒卵割つて裸の寒卵
角　春待つや甘く巻きたる卵焼

17行3段組14ポ　2026年5月13日　09:22　〈1〉　桐10

2026・5・14【角川俳句賞2026 At-27 43〜25句2増1減】選4句

角 麗かや頭で数へる蝶くぐら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 新参の墓石のある彼岸寺
角 終点の駅に港や卒業す
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花篝忍者の潜む夜のお濠
角 花冷の十四五人に出開帳
角 うちの子は云々と言ふその子猫
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 豆めしのいただきますももどかしう
角 飛び立つや○の中から巣立鳥
角 青春の涼しき色に更衣
角 電車到着見よ日本の更衣
角 梅雨晴の千傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 水風呂をプールプールと喜びぬ
角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水
角 働いて針より細き蟻の脚
角 年輪を切れば年輪蟬時雨
角 蟻地獄向三軒両隣
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 玄関に小さき地べたや秋の暮
角 水槽で終る一生星祭
角 火より人恋しく籠る山河かな
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす焚火かな
角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 寒卵割つて裸の寒卵
角 春待つや甘く巻きたる卵焼

17行3段組14ポ 2026年5月14日 17:07 〈1〉 桐10

2026・5・16【角川俳句賞2026At-28 40/242句1増4減】選句

角 麗かや頭で数へる蝶くぐら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 新参の墓石もある彼岸寺
角 終点の駅に港や卒業す
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花簪忍者の潜む夜のお濠
角 花冷の十四五人に出開帳
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 豆めしのいただきますももどかしう
角 飛び立つや〇の中から巣立鳥
角 電車到着見よ日本の更衣
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 水風呂をプールプールと喜びぬ
角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水
角 働いて針より細き蟻の脚
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 玄関に小さき地べたや秋の暮
角 水槽で終る一生星祭
角 火より人恋しく籠る山河かな
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす焚火かな
角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 寒卵割つて裸の寒卵
角 うちの子の自慢話とその子猫
角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川

17行 3段組14ポ 2026年5月16日 10:23 〈1〉 桐10

2026・5・19【角川俳句賞2026 At-29 44／250句 4増0減】選句

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 雛の間に半月ほどの昼夜かな
角 新参の墓石もある彼岸寺
角 終点の駅に港や卒業す
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花簪忍者の潜む夜のお濠
角 花冷の十四五人に出開帳
角 うちの子の自慢話とその子猫
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 豆めしのいただきますももどかしう
角 飛び立つや〇の中から巣立鳥
角 電車到着見よ日本の更衣
角 梅雨晴の千傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 教室の壁の画鋲も夏休
角 水風呂をプールプールと喜びぬ
角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水
角 蟬の字に憚の字が紛れ込む
角 働いて針より細き蟻の脚
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 祠ごと地蔵を冷やす白雨かな
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 玄関に小さき地べたや秋の暮
角 水槽で終る一生星祭
角 火より人恋しく籠る山河かな
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす焚火かな
角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 寒卵割つて裸の寒卵

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 雛の間に半月ほどの昼夜かな
角 新参の墓石もある彼岸寺
角 終点の駅に港や卒業す
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花簀忍者の潜む夜のお濠
角 花冷の十四五人に出開帳
角 うちの子の自慢話とその子猫
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 豆めしのいただきますももどかしう
角 飛び立つや〇の中から巣立鳥
角 電車到着見よ日本の更衣
角 梅雨晴の千傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 教室の壁の画鋲も夏休
角 水風呂をプールプールと喜びぬ
角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水
角 蟬の字に憚の字が紛れ込む
角 働いて針より細き蟻の脚
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 祠ごと地蔵を冷やす白雨かな
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 玄関に小さき地べたや秋の暮
角 水槽で終る一生星祭
角 火より人恋しく籠る山河かな
角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす焚火かな
角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 寒卵割つて裸の寒卵
角 田を植ゑて祭のごとき明るさよ
角 硬きまま膨らみ来る林檎の実

2026・5・20【角川俳句賞2026 At-31 47／27一句2増0減】選4句

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ
角 新参の墓石もある彼岸寺
角 終点の駅に港や卒業す
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花簪忍者の潜む夜のお濠
角 花冷の十四五人に出開帳
角 うちの子の自慢話とその子猫
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの時もこの葉桜と夏柳

角 豆めしのいただきますももどかしう
角 飛び立つや〇の中から巣立鳥
角 電車到着見よ日本の更衣
角 田を植ゑて祭のごとき明るさよ
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 教室の壁の画鋲も夏休
角 水風呂をプールプールと喜びぬ
角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水
角 蟬の字に憚の字の面影が
角 働いて針より細き蟻の脚
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 祠ごと地蔵を冷やす白雨かな
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 「アンカー」の鉢巻長し運動会
角 玄関に小さき地べたや秋の暮
角 水槽で終る一生星祭
角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 火恋し人恋しとは思はねど
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす焚火かな
角 日本にも名曲のありクリスマス
角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 寒卵割つて裸の寒卵

17行3段組14ポ 2026年5月20日 11:13 〈1〉 桐10

角 麗かや頭で数へる蝶くぐら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ
角 新参の墓石もある彼岸寺
角 終点の駅に港や卒業す
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 栄螺なら強い戦車も作れさう
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花簀忍者の潜む夜のお濠
角 花冷の十四五人に出開帳
角 うちの子の自慢話とその子猫
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 豆めしのいただきますももどかしう
角 飛び立つや〇の中から巣立鳥
角 電車到着見よ日本の更衣
角 田を植ゑて祭のごとき明るさよ
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効ある雲の峰
角 教室の壁の画鋲も夏休
角 水風呂をプールプールと喜びぬ
角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水
角 蟬の字に憚の字の面影が
角 働いて針より細き蟻の脚
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 祠ごと地蔵を冷やす白雨かな
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 アンカーの長き鉢巻運動会
角 玄関に小さき地べたや秋の暮
角 水槽で終る一生星祭
角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 火恋し人恋しとは思はねど
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす落葉焚
角 日本にも名曲のありクリスマス
角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 寒卵割つて裸の寒卵
角 三月を破り捨てたる四月かな

17行3段組14ポ 2026年5月22日 06:43 〈1〉 桐10

2026・5・24【角川俳句賞2026 At-33 49/28 2句2増2減】選5句

角 麗かや頭で数へる蝶くぢら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ
角 新参の墓石もある彼岸寺
角 終点の駅に港や卒業す
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 栄螺なら強い戦車も作れさう
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花篝忍者の潜む夜のお濠
角 花冷の十四五人に出開帳
角 うちの子の自慢話とその子猫
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 幹少し後は若葉や枝見えず
角 豆ごはんいただきますももどかしう
角 飛び立つや〇の中から巣立鳥
角 電車到着見よ日本の更衣
角 田を植ゑて祭のごとき明るさよ
角 梅雨晴の千傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 教室の壁の画鋲も夏休
角 水風呂をプールプールと喜びぬ
角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水
角 蟬の字に憚の字の面影が
角 働いて針より細き蟻の脚
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 祠ごと地蔵を冷やす夕立かな
角 たけのこの里もきのこの山も秋
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 玄関に小さき地べたや秋の暮
角 水槽で終る一生星祭
角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 火恋し人恋しとは思はねど
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす落葉焚
角 日本にも名曲のありクリスマス
角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 寒卵割つて裸の寒卵
角 三月を破り捨てたる四月かな

角 春昼や頭で数へる蝶くぢら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ
角 新参の墓石もある春の風
角 終点の駅に港や卒業す
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 栄螺なら強い戦車も作れさう
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花簪忍者の潜む夜のお濠
角 花冷の十四五人に出開帳
角 うちの子の自慢話とその子猫
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 幹少し後は若葉や枝見えず
角 豆ごはんいただきますもどかしう
角 着膨れの正体見たり夏蜜柑
角 飛び立つや○の中から巣立鳥
角 電車到着見よ日本の更衣
角 田を植ゑて祭のごとき明るさよ
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 水風呂をプールプールと喜びぬ
角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水
角 天使より大きな翼揚羽蝶
角 蟬の字に憚の字の面影が
角 働いて針より細き蟻の脚
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 祠ごと地蔵を冷やす夕立かな
角 たけのこの里もきのこの山も秋
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 玄関に小さき地べたや秋の暮
角 水槽で終る一生星祭
角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす落葉焚
角 日本にも名曲のありクリスマス
角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 寒鯉は餅も食はずに沈みをる
角 書初や紙のま白に墨硯
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 寒卵割つて裸の寒卵
角 三月を破り捨てたる四月かな

角 春昼や頭で数へる蝶くぢら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ
角 新参の墓石もある春の風
角 終点の駅に港や卒業す
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 栄螺なら強い戦車も作れさう
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花冷の十四五人に出開帳
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 幹少し後は若葉や枝見えず
角 豆ごはんいただきますももどかしう
角 着膨れの正体見たり夏蜜柑

角 飛び立つや〇の中から巣立鳥
角 電車到着見ヨ日本ノ更衣
角 田を植ゑて祭のごとき明るさよ
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 水風呂をプールプールと喜びぬ
角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水
角 天使より大きな翼揚羽蝶
角 蟬の字に憚の字の面影が
角 働いて針より細き蟻の脚
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 祠ごと地蔵を冷やす夕立かな
角 たけのこの里もきのこの山も秋
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 玄関に小さき地べたや秋の暮

角 水槽で終る一生星祭
角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 われ知らぬ菊人形の重さかな
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 この杭や冬日の中に鳥を待つ
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 鷹に雀られたる鳥の骨白し
角 土と水かけて終らす落葉焚
角 日本にも名曲のありクリスマス
角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 書初や紙のま白に墨硯
角 寒鯉は餅も食はずに沈みをる
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 寒卵割つて裸の寒卵
角 三月を破り捨てたる四月かな

2026・5・26【角川俳句賞2026 At-36 50/28句5増5減】選5句

角　春昼や頭で数へる蝶くぢら
角　梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角　雛の間の半月ほどの昼夜こそ
角　新参の墓石もある春の風
角　終点の駅に港や卒業す
角　地に芽吹き木々にも芽吹く志
角　栄螺なら強い戦車も作れさう
角　かたかなでヒラガナと書く万愚節
角　母校とて知る人もなし桜咲く
角　鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角　湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角　花冷の十四五人に出開帳
角　昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角　幹少し後は若葉や枝見えず
角　豆ごはんいただきますももどかしう
角　着膨れの正体見たり夏蜜柑
角　飛び立つや〇の中から巣立鳥
角　電車到着見ヨ日本ノ更衣
角　田を植ゑて祭のごとき明るさよ
角　梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角　胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角　水風呂をプールプールと喜びぬ
角　スッピンの涼しき顔で否と言ふ
角　ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水
角　天使より大きな翼揚羽蝶
角　蟬の字に憚の字の面影が
角　働くや針より細き蟻の脚
角　飛来する蚊や警告を発しつつ
角　蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角　祠ごと地蔵を冷やす夕立かな
角　たけのこの里もきのこの山も秋
角　水槽で終る一生星祭
角　台風に防潮堤の重たけれ
角　玄関に小さき地べたや秋の暮
角　荒積みのテトラポッドに流れ星
角　われ知らぬ菊人形の重さかな
角　硬きままふくらんでゆく林檎の実
角　混み合へる画鋲の箱や山眠る
角　山に雪プリンのあたま焦茶色
角　この杭や冬日の中に鳥を待つ
角　落葉道駅へ続けりお寺へも
角　鷹に峯られたる鳥の骨白し
角　土と水かけて終らす落葉焚
角　日本にも名曲のありクリスマス
角　去年今年地に張り付ける滑走路
角　角部屋の今こそ光れ初日の出
角　書初や紙のま白に墨硯
角　寒鯉は餅も食はずに沈みをる
角　衰へし日にも力や日向ぼこ
角　三月を破り捨てたる四月かな

角 春昼や頭で数へる蝶くぢら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ
角 新参の墓石もある春の風
角 終点の駅に港や卒業す
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 栄螺なら強い戦車も作れさう
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 花冷の十四五人に出開帳
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 豆ごはんいただきますももどかしう
角 着膨れの正体見たり夏蜜柑
角 電車到着見ヨ日本ノ更衣
角 幹少し見えて青葉に枝見えず
角 飛び立つや〇の中から巣立鳥
角 田を植ゑて祭のごとく明るけれ
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 水風呂をプールプールと喜びぬ
角 スッピンの涼しき顔で否と言ふ
角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水
角 天使より大きな翼揚羽蝶
角 蟬の字に憚の字の面影が
角 働くや針より細き蟻の脚
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 祠ごと地蔵を冷やす夕立かな
角 たけのこの里もきのこの山も秋
角 水槽で終る一生星祭
角 台風に防潮堤の重たけれ
角 玄関に小さき地べたや秋の暮
角 荒積みのテトラポッドに流れ星
角 われ知らぬ菊人形の重さかな
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 混み合へる画鋲の箱や山眠る
角 山に雪プリンのあたま焦茶色
角 この杭や冬日の中に鳥を待つ
角 鷹に雀られたる鳥の骨白し
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす落葉焚
角 日本にも名曲のありクリスマス
角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 書初や紙のま白に墨硯
角 寒鯉は餅も食はずに沈みをる
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 三月を破り捨てたる四月かな

角 郊外はもうやはらかな春の土
角 サイレンもチャイムも春の昼休
角 春昼や頭で数へる蝶くぢら
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ
角 新参の墓石もある春の風
角 終点の駅に港や卒業す
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 栄螺なら強い戦車も作れさう
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 うちの子といふは猫の子日だまりの
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 花冷の十四五人に出開帳
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 豆ごはんいただきますももどかしう
角 電車到着見ヨ日本ノ更衣
角 水槽で終る一生星祭
角 幹少し見えて青葉に枝見えず
角 飛び立つや○の中から巣立鳥
角 田を植ゑて祭のごとく明るけれ
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 水風呂をプールプールと喜びぬ
角 スッピンの涼しき顔で否と言ふ
角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水
角 天使より大きな翼揚羽蝶
角 蟬の字の憚に似る旱かな
角 働くや針より細き蟻の脚
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 祠ごと地蔵を冷やす夕立かな
角 玄関に小さき地べたや秋の暮
角 荒積みのテトラポッドに流れ星
角 台風に防潮堤の重たけれ
角 われ知らぬ菊人形の重さかな
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 混み合へる画鋲の箱や山眠る
角 山に雪プリンのあたま焦茶色
角 この杭や冬日の中に鳥を待つ
角 鷹に峯られたる鳥の骨白し
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす落葉焚
角 日本にも名曲のありクリスマス
角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 書初や紙のま白に墨硯
角 寒鯉は餅も食はずに沈みをる
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 三月を破り捨てたる四月かな

2026・5・27【角川俳句賞2026At-39 49／314句 0増1減】選4句

17行3段組14ポ 2026年5月27日 23:48 〈1〉 桐10

角 郊外はもうやはらかな春の土
角 サイレンもチャイムも春の昼休
角 春昼や頭で数へる蝶・鯨
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ
角 新参の墓石もある春の風
角 終点の駅に港や卒業す
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 栄螺なら強い戦車も作れさう
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 うちの子といふは猫の子日だまりの
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 花冷の十四五人に出開帳
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 豆ごはんいただきますももどかしう
角 電車到着見ヨ日本ノ更衣
角 幹少し見えて青葉の木なりけり
角 飛び立つや〇の中から巣立鳥
角 田を植ゑて祭のごとく明るけれ
角 梅雨晴の干傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 水風呂をプールプールと喜びぬ
角 スッピンの涼しき顔で否と言ふ
角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水
角 天使より大きな翼揚羽蝶
角 蟬の字の憚に似る旱かな
角 働くや針より細き蟻の脚
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 祠ごと地蔵を冷やす夕立かな
角 荒積みのテトラポッドに流れ星
角 水槽で終る一生星祭
角 台風に防潮堤の重たけれ
角 われ知らぬ菊人形の重さかな
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 混み合へる画鋲の箱や山眠る
角 山に雪プリンのあたま焦茶色
角 この杭や冬日の中に鳥を待つ
角 鷹に毟られたる鳥の骨白し
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす落葉焚
角 日本にも名曲のありクリスマス
角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 書初や紙のま白に墨硯
角 寒鯉は餅も食はずに沈みをる
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 三月を破り捨てたる四月かな

2026・5・28【角川俳句賞2026 At-40 50/325句1増1減】選8句

角 郊外はもうやはらかな春の土
角 サイレンもチャイムも春の昼休
角 春昼や頭で数へる蝶・鯨
角 梅と桃のやうに雛にかしづくよ
角 雛の間の半月ほどの昼夜こそ
角 新参の墓石もある春の風
角 終点の駅に港や卒業す
角 地に芽吹き木々にも芽吹く志
角 栄螺なら強い戦車も作れさう
角 かたかなでヒラガナと書く万愚節
角 うちの子といふは猫の子日だまりの
角 母校とて知る人もなし桜咲く
角 鉄筋は壁に隠れて花吹雪
角 花冷の十四五人に出開帳
角 昭和の日キャラメル甘しチョコ苦し
角 豆ごはんいただきますももどかしう
角 電車到着見ヨ日本ノ更衣
角 幹少し見えて青葉の木なりけり
角 飛び立つや〇の中から巣立鳥
角 田を植ゑて祭のごとく明るけれ
角 梅雨晴の王傘の影濃かりけり
角 胃に溶けて薬効あるる雲の峰
角 水風呂をプールプールと喜びぬ
角 スッピンの涼しき顔で否と言ふ
角 ごぼごぼと吸はれて終はるソーダ水
角 天使より大きな翼揚羽蝶
角 蟬の字の憚に似る旱かな
角 働くや針より細き蟻の脚
角 飛来する蚊や警告を発しつつ
角 蠅と蚊の羽音の違ひ体形も
角 祠ごと地蔵を冷やす夕立かな
角 澄む水を子の長靴が踏み荒らす
角 荒積みのテトラポッドに流れ星
角 水槽で終る一生星祭
角 台風に防潮堤の重たけれ
角 われ知らぬ菊人形の重さかな
角 柿の皮干すや時々ちぎり食ふ
角 硬きままふくらんでゆく林檎の実
角 混み合へる画鋲の箱や山眠る
角 杭四五本冬日の中に鳥を待つ
角 鷹に峯られたる鳥の骨白し
角 落葉道駅へ続けりお寺へも
角 土と水かけて終らす落葉焚
角 日本製降誕祭のヒット曲
角 去年今年地に張り付ける滑走路
角 角部屋の今こそ光れ初日の出
角 書初や紙のま白に墨硯
角 寒鯉は餅も食はずに沈みをる
角 衰へし日にも力や日向ぼこ
角 三月を破り捨てたる四月かな

11行 段組14ポ 2026年5月28日 08:51 〈1〉 桐10